

北小松島小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 児童の実態を把握し、基礎・基本の定着を図る。
- 主体的に取り組み、認め合い、話し合い、学び合う授業の実践を行う。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
前田 久美	校長 中村 誉 研修主任 阿部 さおり 教頭 神崎 貴広 生徒指導主任 川又 佳也 教務主任 坂口 順子

校長

中村 誉

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや整数の四則計算が身に付き、基礎・基本の内容の習得ができています。 ●活用問題に対しては、不十分であるため学習に対する興味・関心を高めるための取組を工夫する必要があります。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、意欲的に学習に取り組むことができる。 ・語彙数が増え、正確に読んだり書いたりできる。	・朝のモジュールや授業の導入部に、単元ごとの復習や既習内容の発展・活用問題等を取り入れた課題を与え、継続して行う。 ・板書やノート指導、図書等の言語環境を整える。	モジュールや授業の導入部分に漢字や計算の練習や復習をすることで基礎基本の力がついてきた。発展・活用問題を定着させるため、課題を解決する学習の場を増やしていく。	・ミニテストやプリント、ドリルを用いた学習などを繰り返すことで基礎・基本の定着を図ることができた。 ・学級や個人の学習成果を記録したり掲示したりして環境を整えることができた。	ブックタイムの時間の充実、日記や作文の指導を通して児童の語彙力を高めていく方策を探る。言葉の意味や新しい漢字を漢字辞典や国語辞典を使って自分の力で調べることができるようにしていく。

【各校の取組状況の把握について】

管理職や教員間での授業参観や研修、報告など、機会を捉えて取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりする活動を好み、意欲的に取り組める児童が増えてきた。 ●自分の思いや考えをよりよく相手に伝えたり、説明したり、新しい考えを作り出したりする力に課題がある。	・問題解決に向けての方法を考え、自分の考えを確かに、豊かに表現することができる。 ・学習場面において、適切な言語活動により自分の思いや考えを表現することができる。	・授業のめあてを明確に示すとともに、課題解決のための話し合いや発表の場を設定する。 ・自分の考えや立場を筋道立てて話したり、書いたりすることができるよう、話形や言葉等を具体的に提示する。 ・児童が意欲的に学習や発表ができるよう、ホワイトボードやICT機器を効果的に活用する。	継続して行う。学習の成果や自分の考えを発表する場を積極的に取り入れ、相手意識や目的意識をもちながら学習する場面を設定していく。	・学習の流れや授業のめあてを明確に提示できたので見直しをもって学習できた。 ・場を設定することで、ペアやグループの話し合い活動が活発にできた。 ・理科の学習などでホワイトボードやICT機器を効果的に活用できた。	意見や思考の過程をまとめる手助けとなるよう、さらにICT機器の活用方法について研究を重ねていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に一生懸命取り組むことができる。家庭学習や朝読書、自主学習の習慣が定着してきている。 ●真面目に取り組むが、自分で課題を設定し、主体的に取り組める児童が少ないため、家庭学習や自主学習の充実を図るための取組が必要である。	・学習課題や家庭学習に対して主体的に取り組むことができる。 ・学習過程において、自らを振り返る時間を設定し、達成感や自身の成長を実感することができる。	・主体的な体験や活動を取り入れたり、発表する場を積極的に設けたりする。また、話し合い活動の場を効果的に取り入れる。 ・「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習や自主学習の仕方を具体的に提示し、個に応じたアドバイスを行う。	継続して行う。チェックカードを使用するなど、家庭学習の状況を把握し、家庭との連携を図る。低学年から自主学習の習慣がつけられるように自主学習の仕方を具体的に示していく。	・調べ学習や発表活動を通して、グループの意見や自分の思いを発言することができてきた。 ・進んで自主学習に取り組む、自主的に学習をしようとする児童が増えた。	「家庭学習の手引き」を家庭と連携しながら活用していくことが課題である。発表の仕方や聞く態度、学び合いなどについて具体的な目標を立て学年の系統を考えていく。

令和4年度 学力向上ロードマップ

